11月29日（日曜日）「パウロ（1）回心」

【新改訳 2017】

使徒　9•1-9

「さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて‥‥ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。彼は地に倒れて、『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか』という声を聞いた。」（1-4 節）

この章の半分は、使徒パウロ（ローマ名）の回心について記録しています。これはぜひ、聖書で全体を読んでください。

この一人の人物の回心は、実に見事にキリストの福音のすばらしさを見せてくれます。そして、彼はこの後、新約聖書の大半の書簡の筆者としても、福音の証人としても、中心的な存在となるのです。

サウロ（ユダヤ名）の回心、すなわち救いは、まったく一方的な神の恵みに始まっています。主は、この敵対者に、ご自分がイエスであることを名乗られ、しかも、彼になすべきことが告げられると言われました。それはサウロを、あることのために選ばれたことを意味していたのです。人間の頭では、容易に考

えられることではありません。主のあわれみの大きさを覚え、御名を賛美しましょう。

～祈り～

主よ。敵対者サウロを救い、用いられた、あなたのあわれみの大きさのゆえに、御名を賛美いたします。同じように、このような罪深い者も救いに導いてくださったことを感謝します。

【学びのために】

サウロはユダヤ名。なお、パウロはローマ名。後にパウロの名で通しています。ユダヤ人。熱心なパリサイ派の学者。キリスト者と教会を迫害した過激派のリーダーでしたが、ダマスコへの途上、復活の主にとらえられ、回心しました。後に偉大な使徒として、大きな働きをしました。